

## 1 目的

本県において、温州みかんは基幹となる果樹であり、極早生温州「かごしま早生」を適品種として推進している。本品種は、加温栽培では糖度 13 まで達することから、本品種の能力はかなり高い。そこで、露地栽培において、既存の早生温州の高品質果実生産技術により、糖度 13 を目標とする完全着色果実を生産して、本校の新たな商材を開発する。

## 2 実施状況

(1) 平成 25 年 7 月 11 日に透湿性シートを樹冠下に被覆し、摘果、施肥は早生温州の栽培法で管理した。収穫は、慣行の極早生温州の栽培法に比べて、約 1 か月遅い 11 月 4 日であった。収穫果実の品質は糖度 12.8、クエン酸含量 0.72%、着色歩合 9.5 となり、高品質果実の生産を実証した。食味の評価はかなり高く、校内販売では、販売当日に準備した果実は完売（単価 200～250 円/kg）となり、その後もリピーターが多く、順調に販売できた。このことから、早生温州の高品質栽培技術により生産された「かごしま早生」の商品性はかなり高く、農大の新たな商材としての可能性が高まった。

### (2) 現地調査の実施

南九州市の先進農家の現地調査を平成 25 年 9 月に実施した。温州みかん栽培では、栽培地の土壌、気象条件に適した品種、品目の選択が重要であること学び、プロジェクト活動を実施するにあたり、参考になった。

## 3 今後の課題,取り組み

次年度以降の着花状況等、連年結果性について確認する必要がある。また、収穫直前の 10 月下旬にタヌキによる食害が発生したことから、今後、この作型による安定生産に向けて、鳥獣害対策を強化する必要がある。



温州みかんの収穫（25 年 11 月）



先進農家現地視察（南九州市）



温州みかんの販売学習（校内）